



木城町立みどりの杜木城学園

令和6年 9月18日(水)
文責：松ノ木 陽平

2学期スタート

8月27日(火)より新学期が始まりました。始業式では、3人の学園生が、2学期の抱負を発表しました。3年生と4年生の代表は、地域の方へのあいさつの改善について発表しました。具体的には、これまであいさつをされても会釈を返すだけだったということと緊張してしまってあいさつの声が小さくなってしまっていたことを挙げ、自分から元気よくあいさつができるようになりたいと述べました。8年生の代表は、1学期の職場体験で学んだことを学校生活に活かしたいと発表しました。具体的には、2学期の行事の合唱コンクールではリーダーを中心に学級がまとまるように、修学旅行では8年生一人一人が準備をしっかりと行い、授業や行事に取り組む態度を向上させたいと述べました。そして児童生徒会からは本年度のスローガンの掲示物の完成披露がありました。「ひまわり～一人一人が未来に向かって咲く花のように～」ということで、全学級分のひまわりをつくりました。ひまわりの花びらが学園生の手のひらになっているところに、一人一人を大事にしているみたいという思いが込められていて、学園生の仲のよさが表現されています。児童生徒玄関に掲示してありますので、ぜひご覧ください。



すごいぞ、義務教育学校！

9月に入って、義務教育学校ならではの特色ある取組が行われました。まずは、第Ⅱステージ(5・6・7年生)での英語の異学年交流の授業です。これによって、誰に対して自己紹介をするのかという視点ができ、相手意識をもってコミュニケーションをとろうとする態度の育成が期待できます。実際に学園生たちは、最初は緊張していましたが、やりとりを重ねていくうちにコツをつかみ、工夫しながらコミュニケーションをとろうとするようになりました。



次に、1・2年生での国際交流(外国語活動)の授業です。本校は前期課程で一部教科担任制を導入しているので、外国語専科の教師がいます。さらにALTも常駐しているので、そのよさを生かして、本来1・2年では行われない外国語活動への入門的な活動を行いました。学園生は楽しく活動に参加していて、外国の文化や言葉に対するよいイメージをもつことができました。



台北市立建成國民中學（台湾）との姉妹校締結

7月31日（水）～8月3日（土）に、町の海外派遣事業に学園生代表20名が参加し、台湾に研修に行ってきました。台北市内の観光地を視察し、台北市立建成國民中學（たいpeiいしきんせいくみんちゅうがく）との交流会を行いました。交流会に向けて、出発の1か月前から準備を行ってきました。おかげで充実した交流会になりました。また、今回姉妹校締結をしましたので、今後も交流を続けていくことになります。ICTも活用しながら、現地での交流だけでなく、オンラインでの交流も視野に入っていますので、ご期待ください。また、現地での研修についての発表は11月9日（土）の「生涯学習のつどい」で行う予定ですので、ぜひ学校にいらしてください。



コスモス大作戦

9月6日（金）に、地域協働活動のひとつとして、町の花であるコスモスの種を植える作業を地域の方々と行いました。当日は学園生も多く参加して、土の盛り方などを教えてもらいながらプランターに丁寧に植えてきました。一週間もすると芽が出てきました。今後の成長を学園全体で見守っていきたいと思います。



これ以外にも、地域をホタルでいっぱいにしようとしている町内の団体の方々による出前授業や、朝の時間の読み聞かせなど、地域や保護者の皆様の協力を得ながら教育活動が行えることが木城学園のよさのひとつです。これからも地域と共にある学校づくりを進めていきますので、ご協力よろしくお願ひいたします。



全国的には、教育改革が様々な形で試行され取り組まれています。例えば、中学校で定期テストや宿題を廃止したり、固定した学級担任制の廃止等これまで学校において当然と思っていたことが改革されています。それらの根拠となる考え方の一つとして、日本の教育は「子どもに与え続ける教育」であり、「子どもたちは与えられることになれ、当事者意識がなくなっている。手をかけられることになると、自分も他人も嫌いになり不幸な気持ちになる。」というものです。

これから本当に予想もできない変化の激しい時代になります。子育ての目標は、他人からの力も借りながら、子供たちが自らの力で主体的に生きていく力を身に付けさせることだと思います。
これからも保護者の皆様、そして地域の皆様と共に学び、考え、挑戦していく学校でありたいと思います。2学期も学園生たちのためにどうぞご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

耕心コーナー 「子どもに主体的に生きる力を」

（校長）